

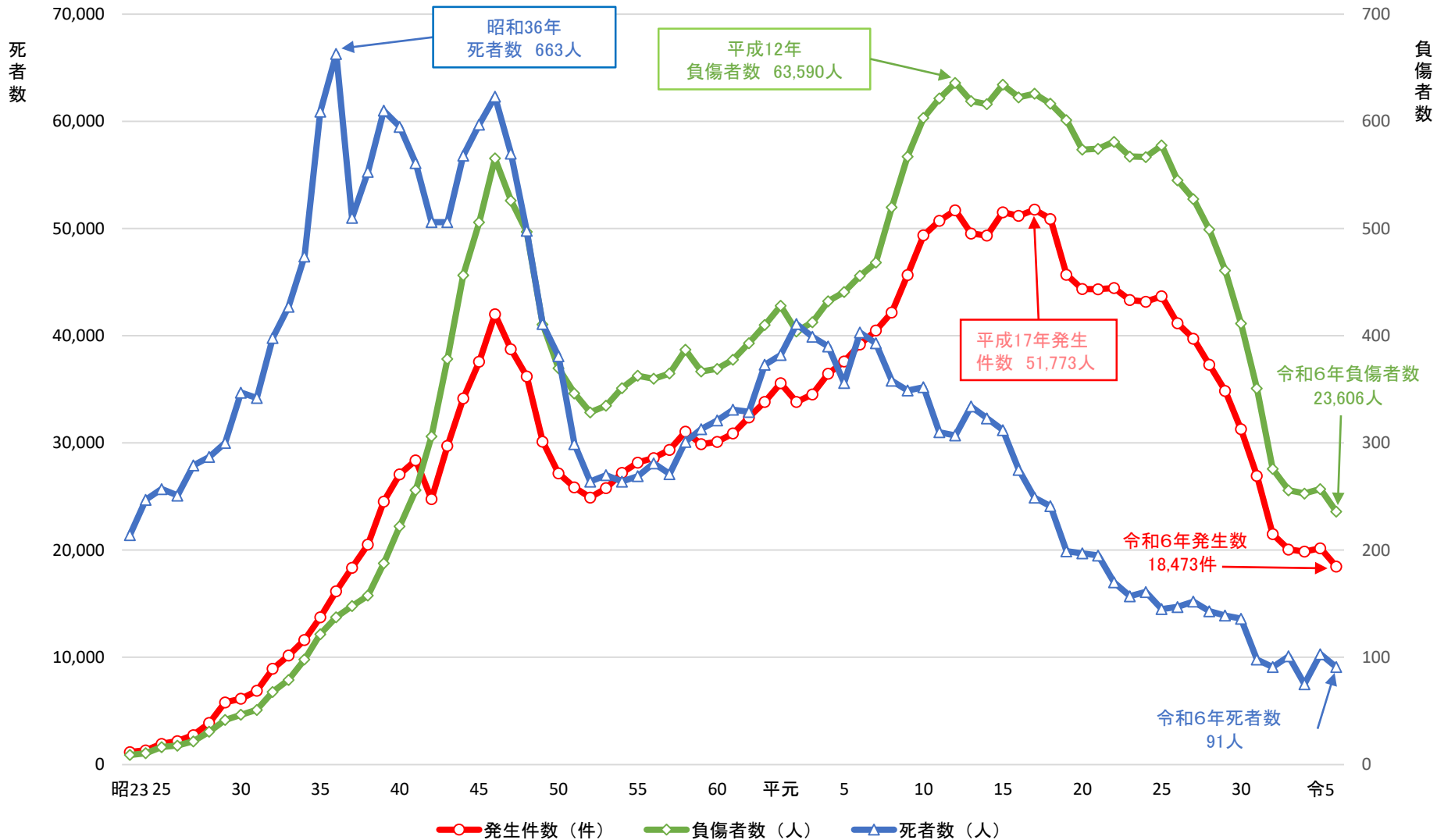
# 令和6年における交通事故 の発生状況について

令和7年4月4日  
福岡県警察本部  
交通部交通企画課

- (注)・本資料は、令和7年2月28日までに入手したデータにより作成したものである。  
・数値は、単位未満で四捨五入してあるため、合計等が内訳の数値と一致しない場合がある。

# 1 交通事故発生状況の推移(死者数・重傷者数・負傷者数)

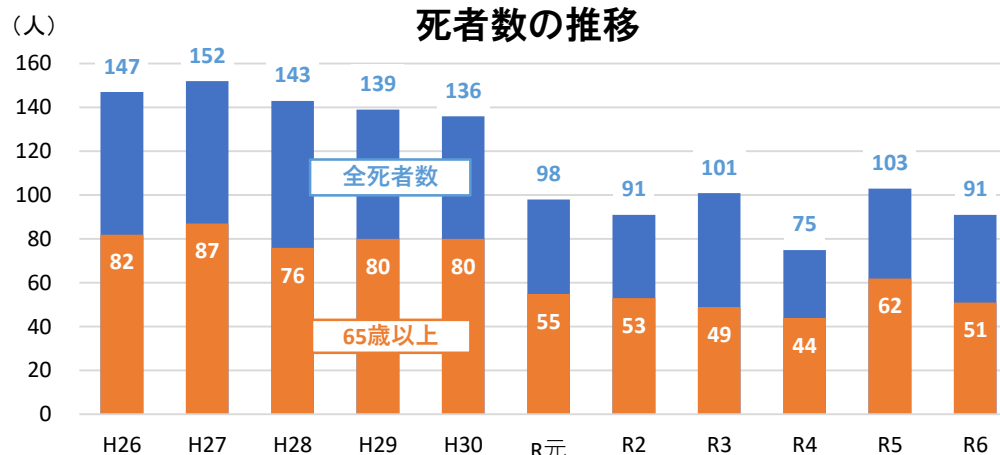
- 令和6年中の交通事故発生件数は18,473件で、前年比-1,700件、8.4%減
- 令和6年中の死者数は91人で、前年比-12人、11.7%減
- 令和6年中の負傷者数は23,606人で、前年比-2,093人、8.1%減



(注) ・ 昭和41年以前の発生件数には、物件事故を含む。  
 ・ 昭和34年以前は軽微な被害(8日未満の負傷)事故は含まない。

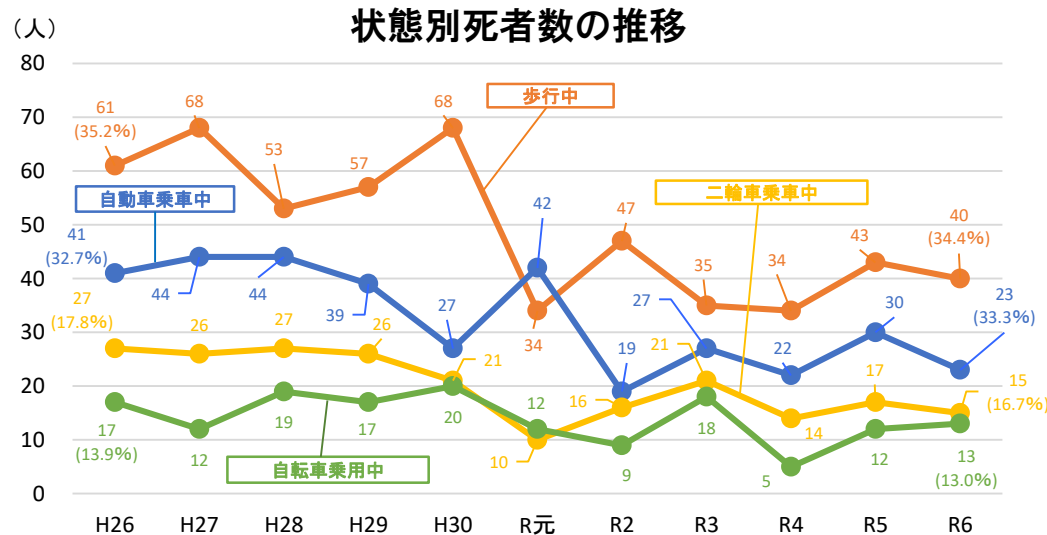
# 1-2 交通事故発生状況の推移

- 65歳以上の死者数は51人で、前年比-11人、17.7%減
- 状態別では、「自転車乗車中」が増加、「歩行中」、「自動車乗車中」及び「二輪車乗車中」は減少



65歳以上の構成率	55.8%	57.2%	53.1%	57.6%	58.8%	56.1%	58.2%	48.5%	58.7%	60.2%	56.0%
高齢者の人口(千人)	1,278	1,321	1,357	1,384	1,409	1,425	1,432	1,445	1,449	1,451	—
全人口に占める高齢者の割合	25.1%	25.9%	26.6%	27.1%	27.6%	27.9%	27.9%	28.2%	28.3%	28.4%	—

(注) 人口は、総務省統計資料「人口推計」(各年10月1日現在人口(補間補正を行っていないもの。ただし、国勢調査実施年は国勢調査人口(不詳補完値)による。))による。



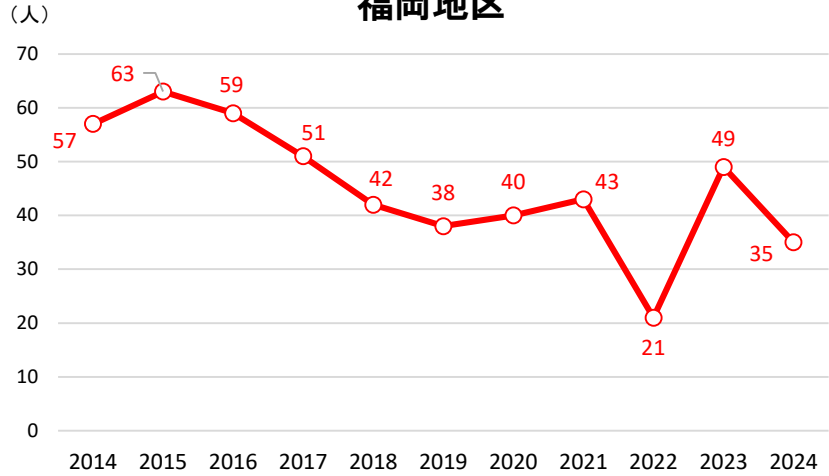
(注) ( )内は全死者数に占める構成率であり、少数点以下第2位を四捨五入している。

# 〈参考〉地区別死者数の推移(高速道路を除く)

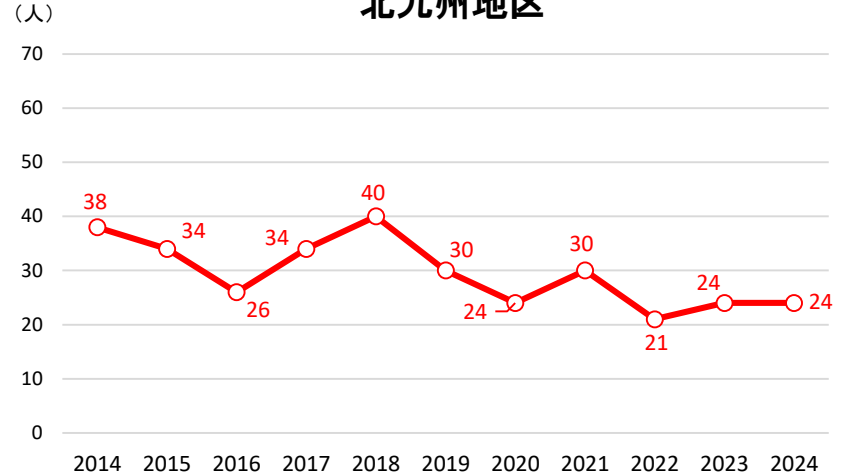
- 福岡地区は2年振りに減少
- 筑豊地区は2年連続減少

- 北九州地区は2023年から横這い
- 筑後地区は3年連続増加

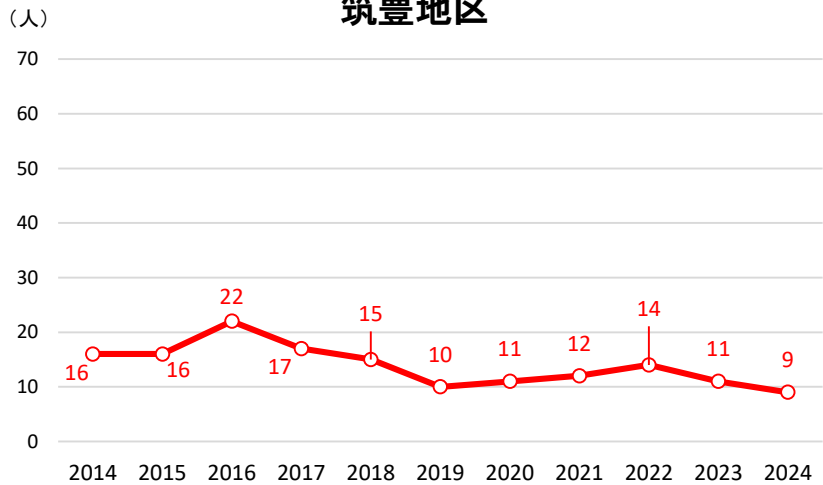
## 福岡地区



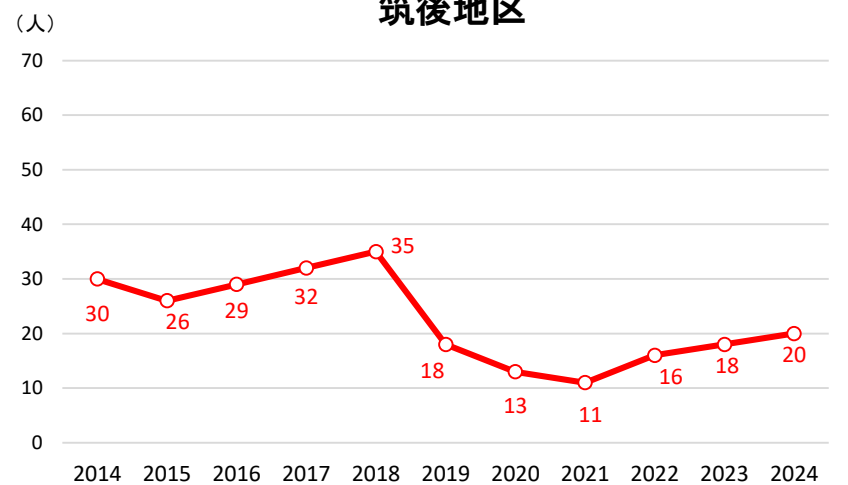
## 北九州地区



## 筑豊地区



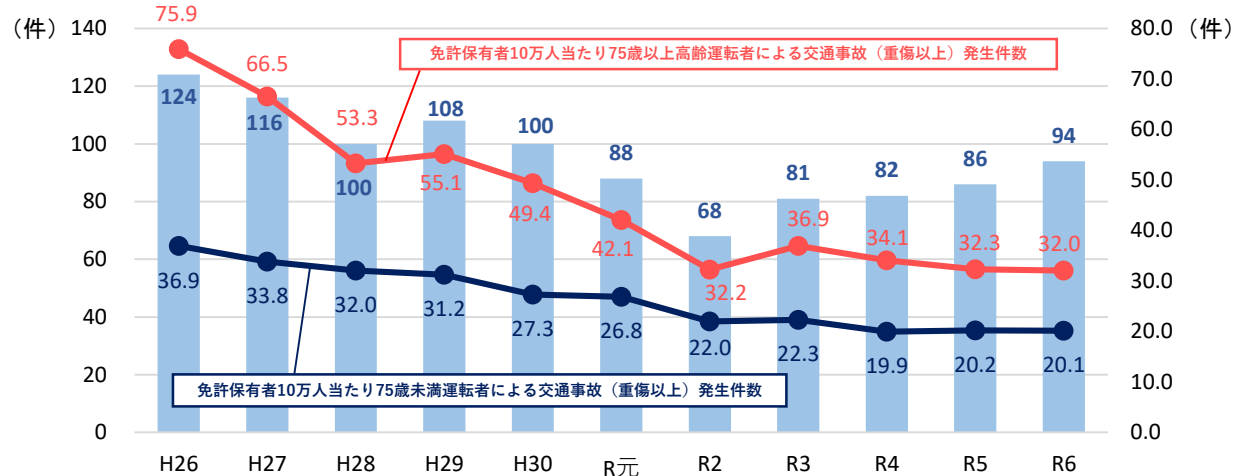
## 筑後地区



## 2 自動車～高齢運転者

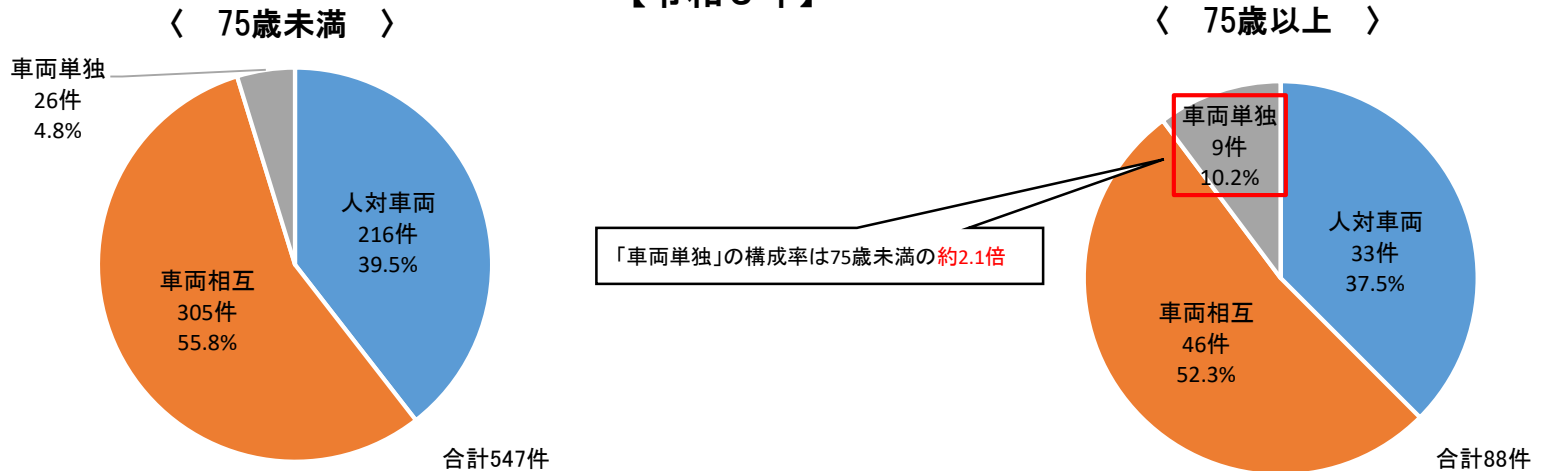
- 75歳以上高齢運転者による交通事故(重傷以上)は、4年連続増加(免許保有者当たりでは75歳未満の約1.6倍)
- 「車両単独」事故の構成率は75歳未満の約2.1倍

### 75歳以上高齢運転者(一般原付以上運転)による交通事故件数(重傷以上)の推移



(注)・第1当事者が一般原付以上(令和5年は特定小型原動機付自転車を含む。)の件数である。  
 ・運転者の年齢が16歳以上の事故について集計した。  
 ・算出に用いた免許保有者数は、各年12月末の値である。

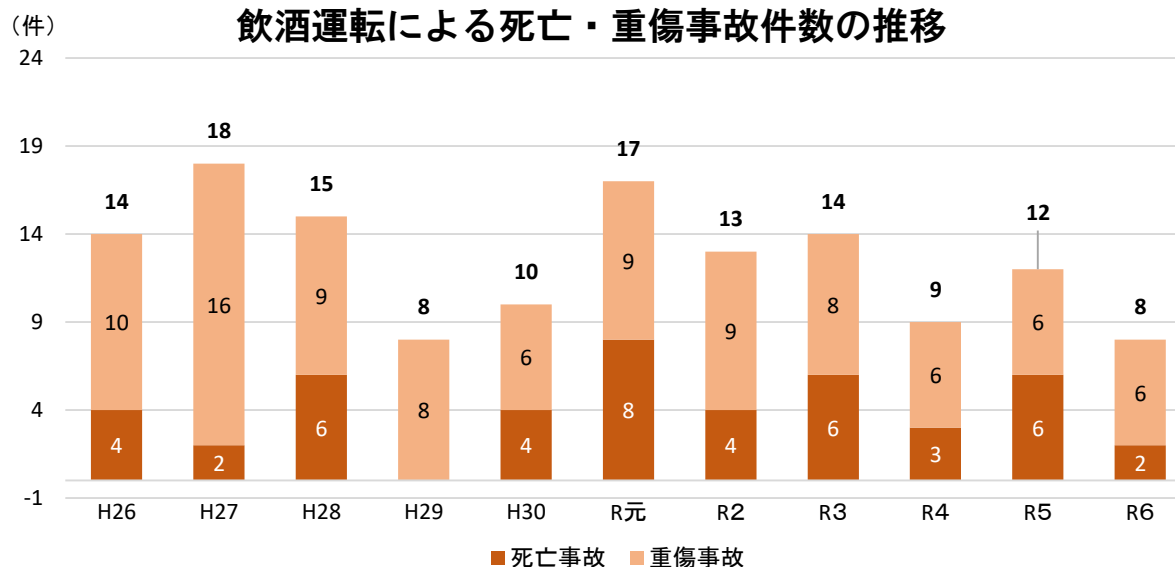
### 75歳以上高齢運転者(自動車運転)による事故類型別交通事故件数(重傷以上)【令和6年】



(注) 第1当事者が自動車(乗用車、貨物車、特殊車)の件数である。

### 3 自動車～飲酒運転

- 飲酒運転による死亡事故発生件数は2件で、前年比－4件、66.7%減
- 飲酒運転の死亡事故率は飲酒なしの場合の約10.7倍



(注) ・ 第1当事者が一般原付以上(令和6年は特定小型原動機付自転車を含む。)の件数である。以下同じ。  
 ・ 「飲酒運転」とは、運転者の飲酒状況が酒酔い、酒気帯び、基準以下、検知不能のいずれかに該当するものをいう。以下同じ。

#### 〈参考〉 飲酒有無別死亡事故率比較 【令和2年～6年合計】

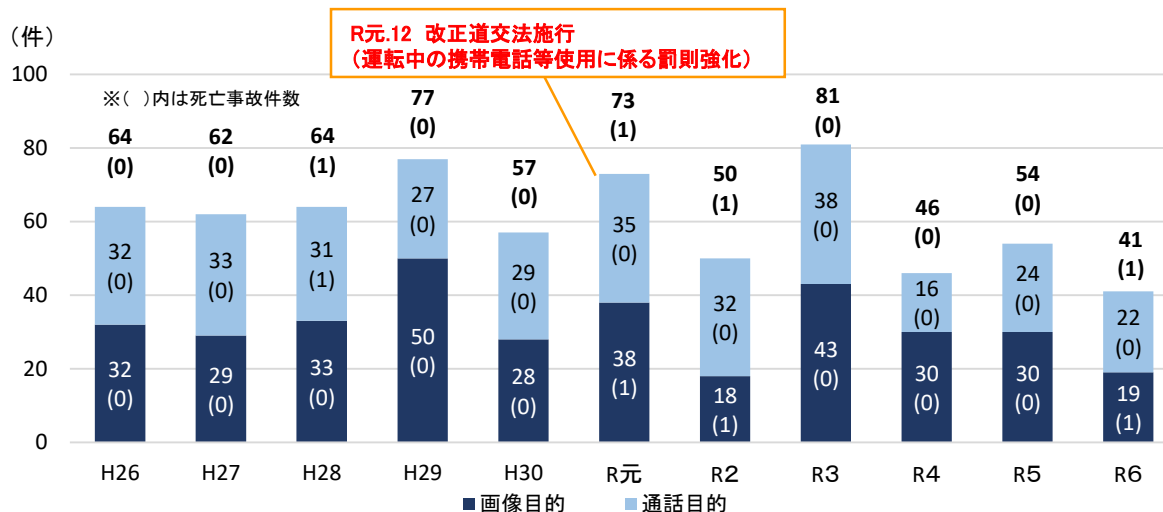


(注) 「死亡事故率」とは、交通事故のうち死亡事故の占める割合をいう。

# 4 自動車～携帯電話等使用

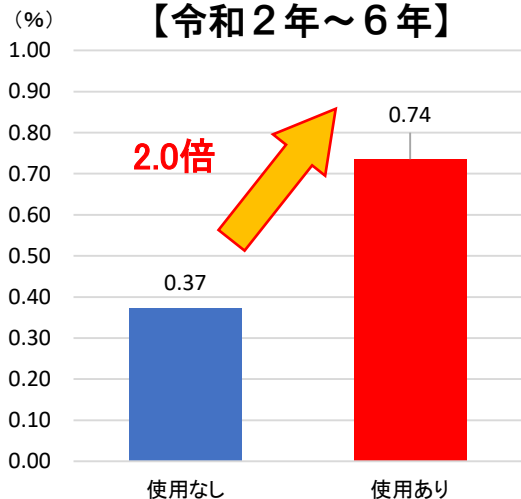
- 携帯電話等使用による交通事故は、近年減少傾向
- 携帯電話等使用時の死亡事故率は不使用时の2.0倍
- 年齢層別では、20歳代から30歳代が約4割

## 携帯電話等使用による交通事故件数の推移



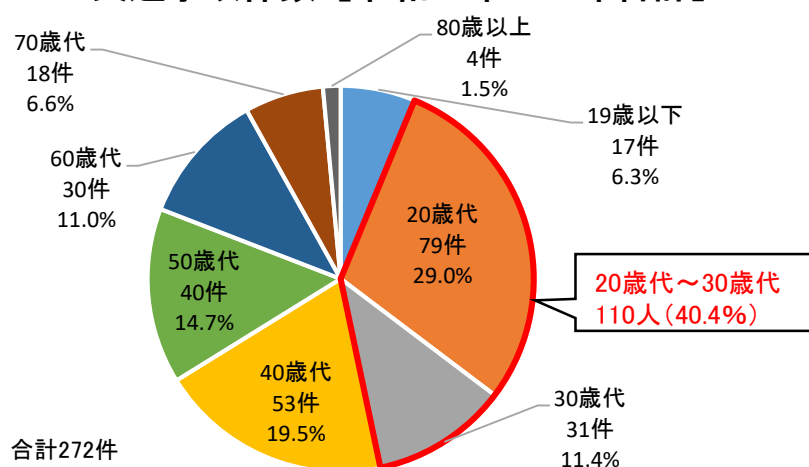
(注) ・第1当事者が自動車（乗用車、貨物車、特殊車）の件数である。以下同じ。  
 ・当該事故が携帯電話の使用等（通話目的・画像目的）が原因となり発生した事故を集計した。以下同じ。

### 〈参考〉携帯電話等使用有無別死亡事故率比較【令和2年～6年】



(注) 「死亡事故率」とは、交通事故のうち死亡事故の占める割合をいう。

### 〈参考〉運転者年齢層別携帯電話等使用による交通事故件数【令和2年～6年合計】

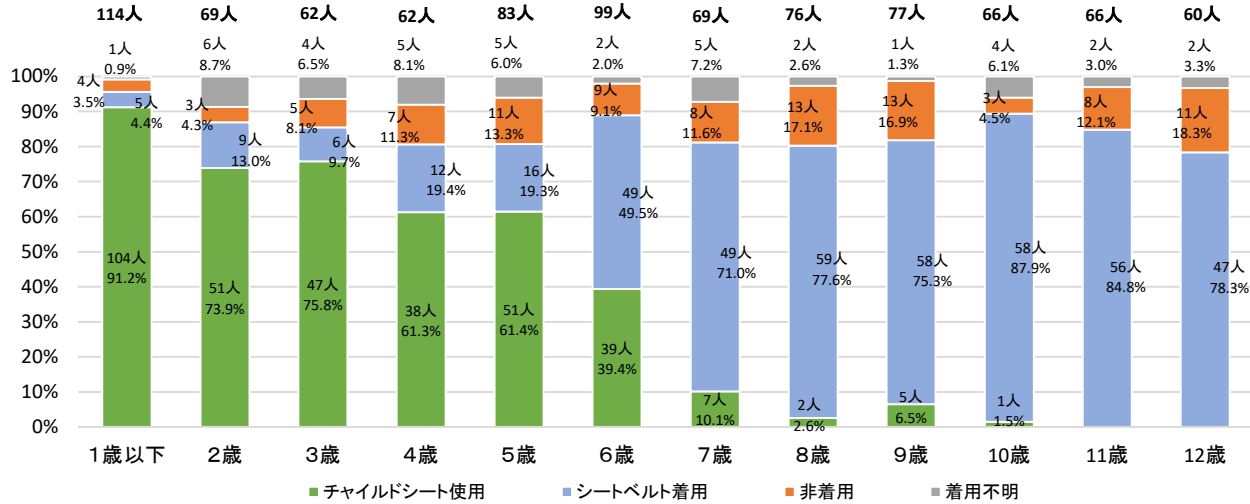


(注) 自動車運転者（第1当事者）の年齢層により区分して集計した。

# 5 自動車～チャイルドシート

- チャイルドシート使用率は年齢とともに低下
- チャイルドシート不使用時の死亡事故は過去5年で2件発生

## 自動車同乗中幼児・児童のチャイルドシート使用状況別死傷者数【令和6年】



(注) 「幼児」とは6歳未満の者、「児童」とは6歳以上12歳以下の者をいう。以下同じ。

## 〈参考〉自動車同乗中幼児のチャイルドシート使用有無別交通死亡事故発生状況【令和2年～6年合計】

		令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
死亡事故発生件数	適正使用	0	0	0	0	0
	不適正使用	0	1	0	0	1
交通発生件数		460	448	399	450	369

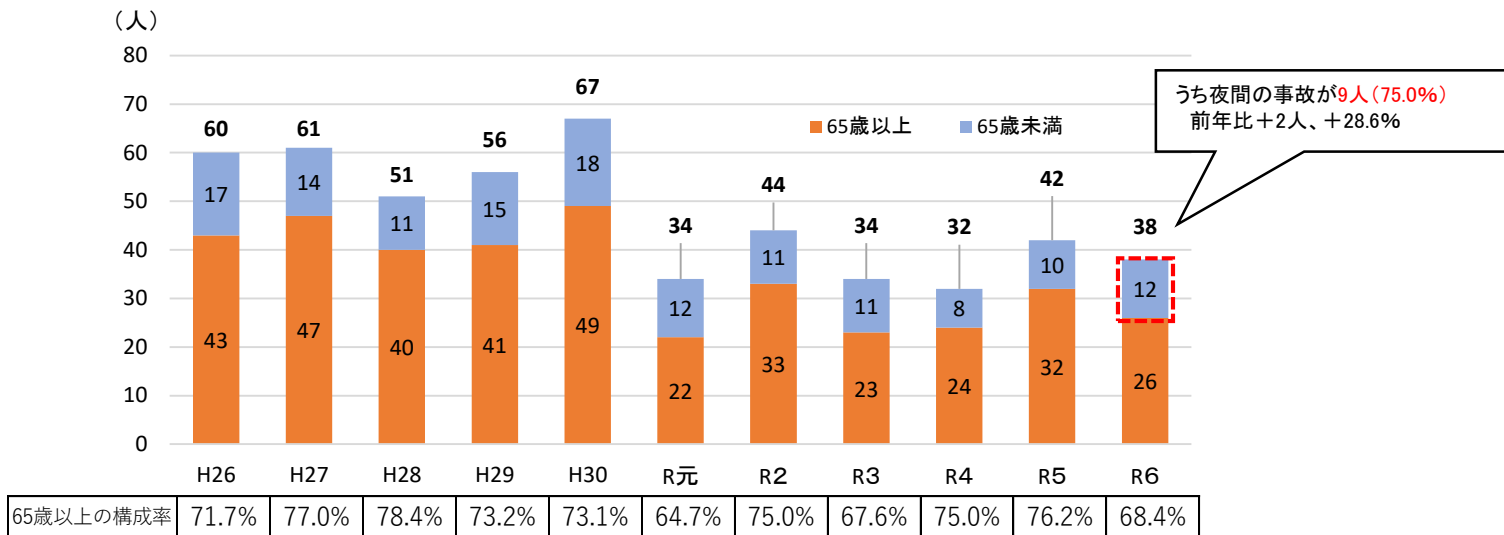
(注) ・ 「不使用」とは、シートベルトを使用していた者及びチャイルドシート・シートベルトいずれも使用・着用していなかった者をいう。



# 6 歩行者

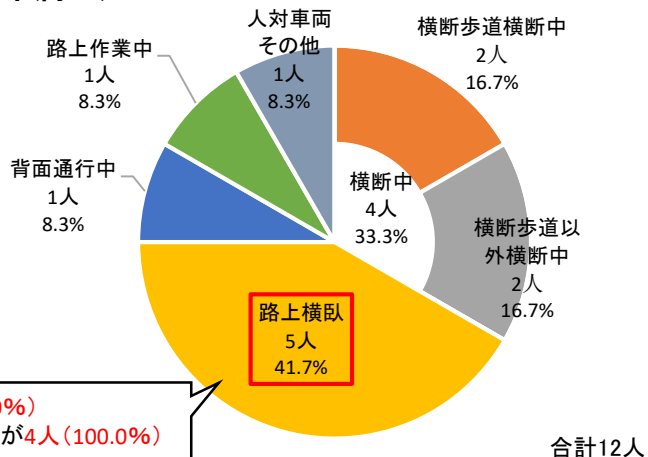
- 65歳未満の死者数は令和元年以降10人前後で推移し、昼夜別では「夜間」が前年比+2人
- 事故類型別では、65歳未満は65歳以上に比べて「路上横臥」の割合が高い

### 歩行中死者数の推移（第1・第2当事者）

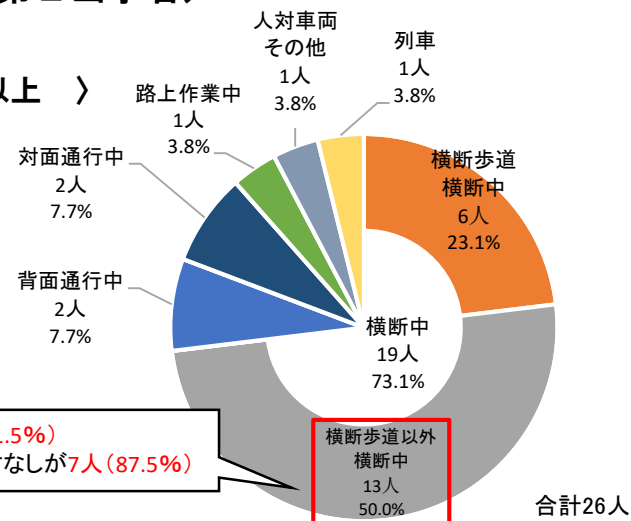


### 事故類型別歩行中死者数（第1・第2当事者）【令和6年】

〈 65歳未満 〉



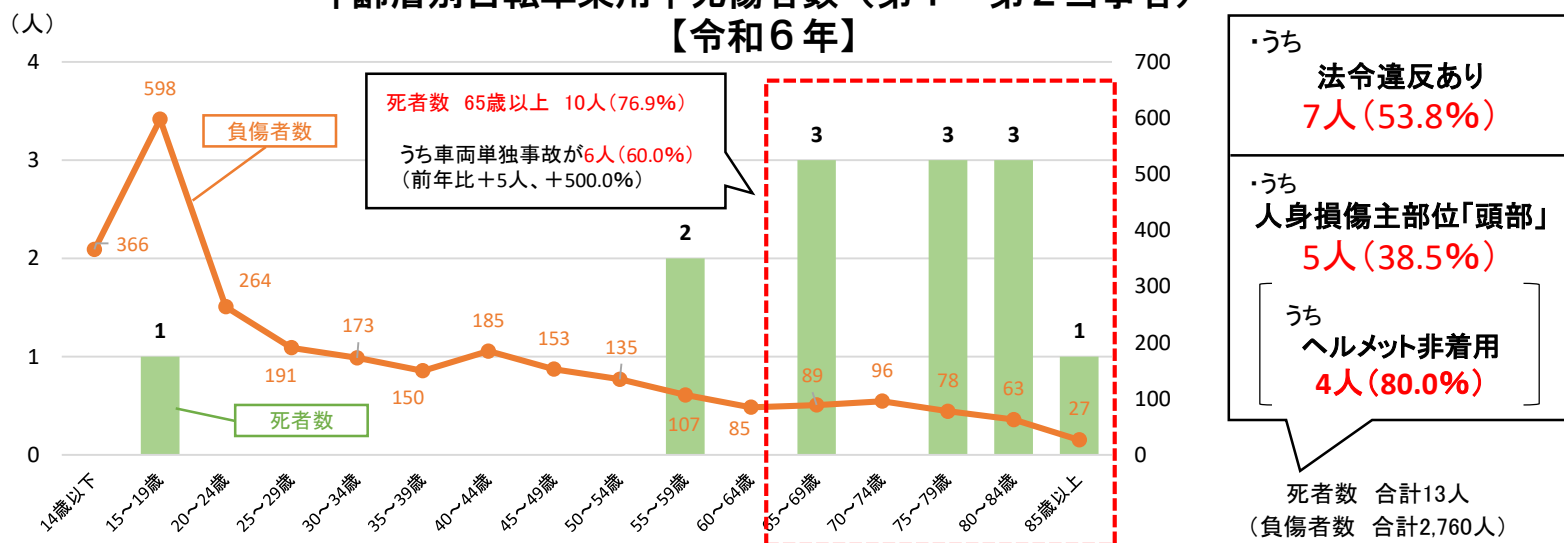
〈 65歳以上 〉



# 7 自転車～年齢層別死傷者数

- 自転車乗用中死者のうち65歳以上が約8割
- ヘルメット着用率は前年比で2.8ポイント上昇
- 自転車乗用中死者の約5割に法令違反あり、約4割が頭部負傷

年齢層別自転車乗用中死傷者数（第1・第2当事者）  
【令和6年】

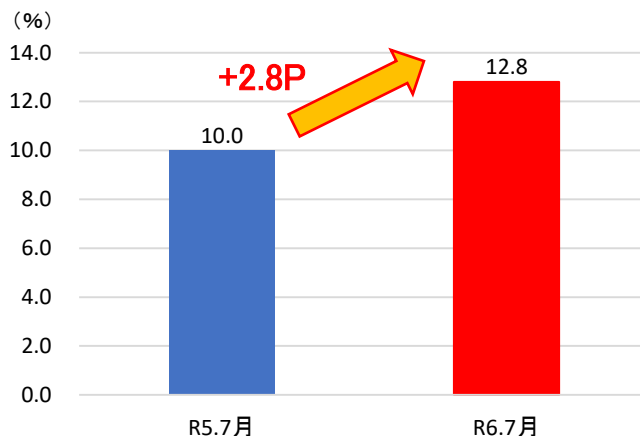


## 〈参考〉ヘルメット着用有無別人身損傷主部位「頭部」構成率比較【令和2年～6年合計】



(注) 自転車乗用中の死者・重傷者における人身損傷主部位が「頭部」であった者の構成率を比較した。

## ヘルメットの着用状況（街頭調査結果）

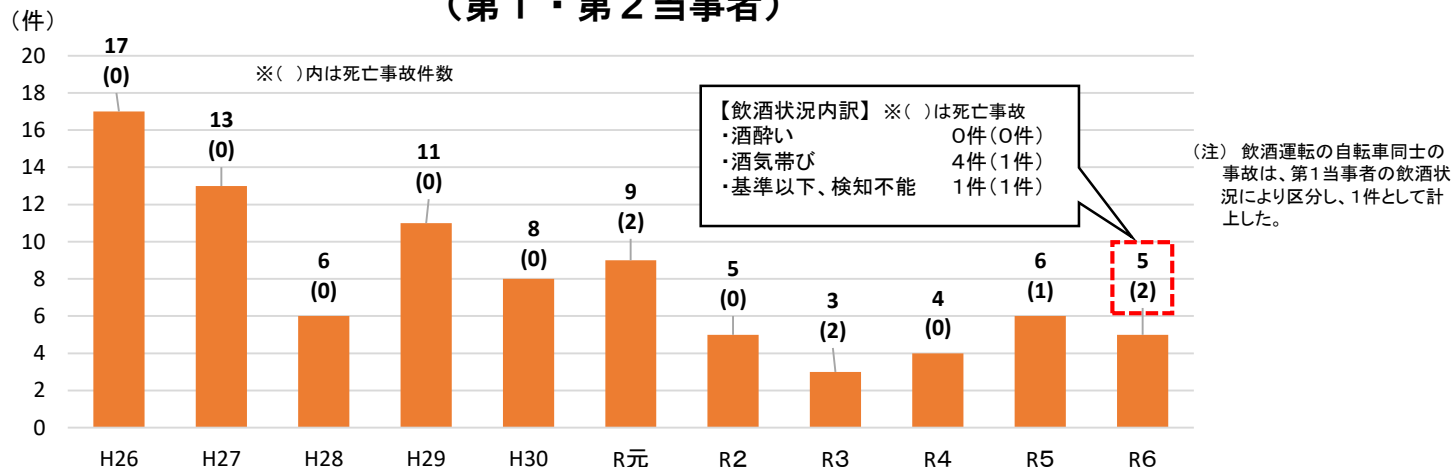


(注) 県下の駅、商店街周辺等の37カ所で行った令和5年7月の調査結果と令和6年7月の調査結果を比較したものである。

# 7-2 自転車～飲酒運転

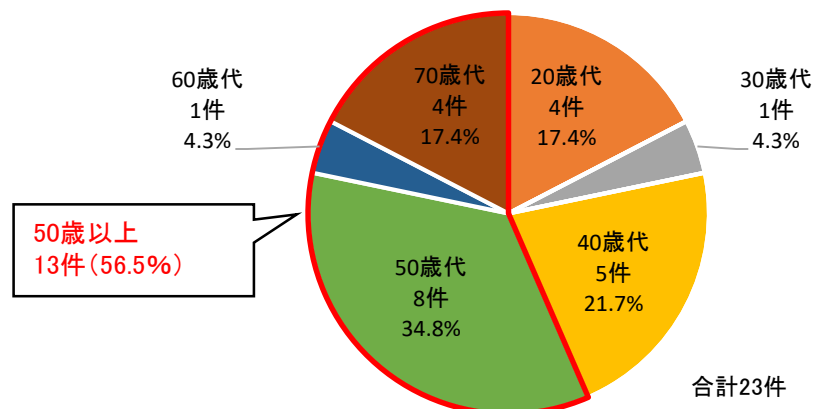
- 飲酒運転自転車関連交通事故は、令和2年以降5件前後で推移
- 年齢層別では、50歳代が21.1%で最多、50歳以上が約6割

### 飲酒運転自転車関連交通事故件数の推移 (第1・第2当事者)



(注) ・ 自転車が第1又は第2当事者となった事故のうち、自転車運転者が飲酒運転であった事故を集計したものであり、飲酒運転の自転車同士の事故は1件として計上した。以下同じ。  
 ・ 「飲酒運転」とは、運転者の飲酒状況が酒酔い、酒気帯び、基準以下、検知不能のいずれかに該当するものをいう。以下同じ。

### 〈参考〉年齢層別飲酒運転自転車関連交通事故件数 (第1・第2当事者) 【令和2年～6年合計】

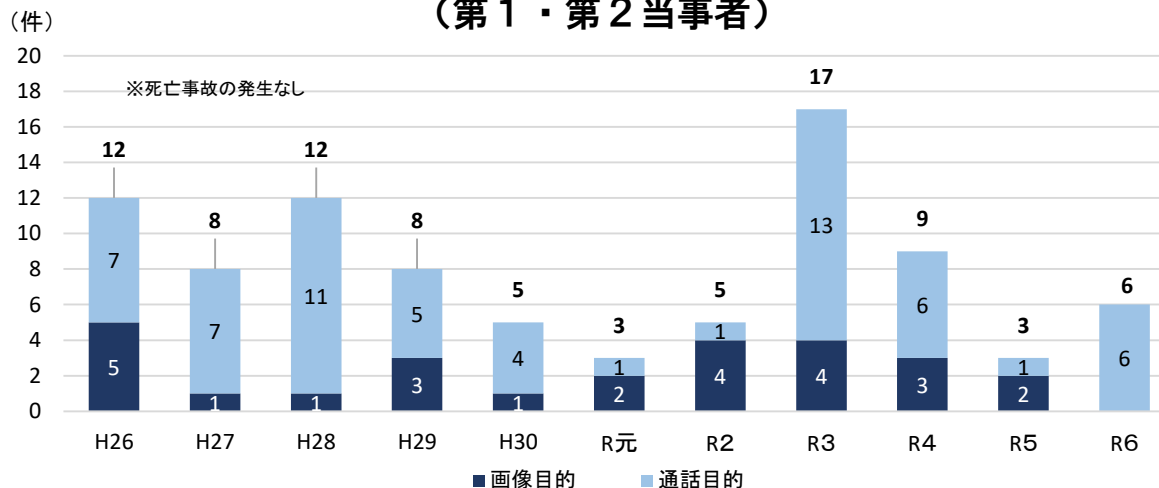


(注) 自転車運転者の年齢層により区分して集計したものであり、飲酒運転の自転車同士の事故は、第1当事者の年齢により区分し、1件として計上した。

# 7-3 自転車～携帯電話等使用

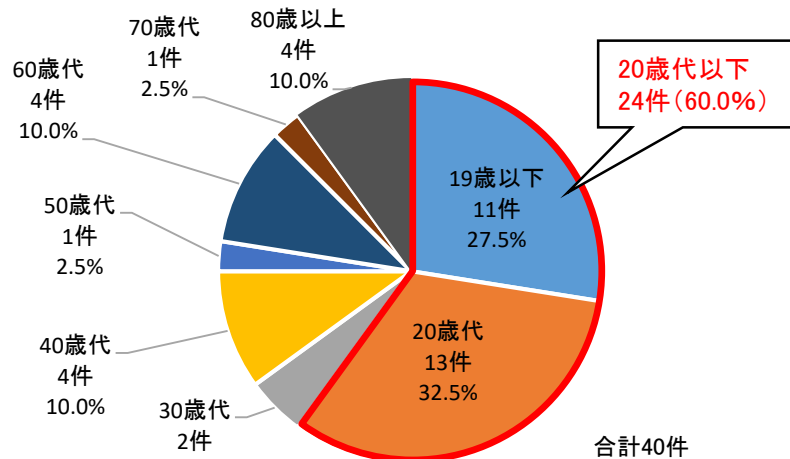
- 携帯電話等使用自転車関連交通事故の発生なし
- 年齢層別では、20歳代以下が6割

### 携帯電話等使用自転車関連交通事故件数の推移 (第1・第2当事者)



(注) 自転車が第1又は第2当事者となった事故のうち、自転車運転者の携帯電話、スマートフォン等の使用が要因となって発生した事故を集計した。以下同じ。

### 〈参考〉年齢層別携帯電話等使用自転車関連交通事故件数 (第1・第2当事者) 【令和2年～6年合計】



(注) 自転車運転者の年齢層により区分して集計した。